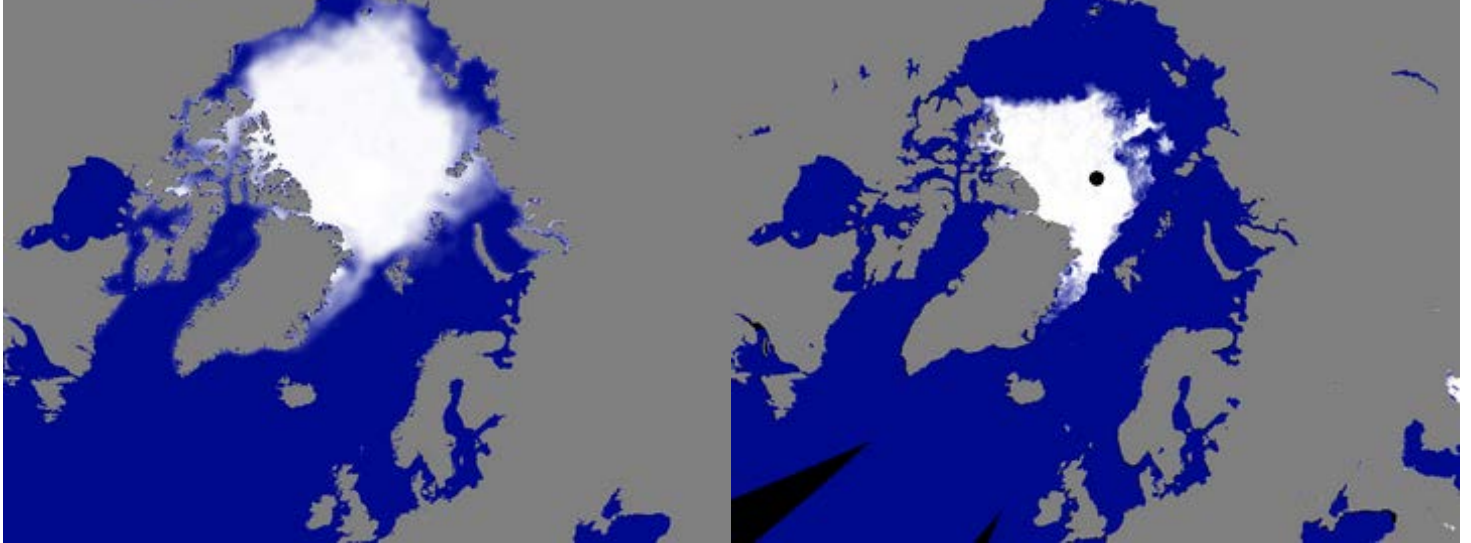


水循環変動観測衛星「しずく」が捉えた！ 北極海の海水の面積が史上最少に



左は1980年代9月最小時期の海水の分布（米国の衛星が観測） 右は2012年9月16日の「しずく」の観測結果

北半球の気温上昇に伴い、氷の厚みが減少。大気や海水温の影響を受けやすくなっている

宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、9月20日に第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W1)に搭載されているマイクロ波放射計(AMSR-2)が観測した北極海の海水データを解析した結果、今年の海水面積が、9月16日に349万平方キロメートルまで縮小し、それまでの観測史上最小記録を更新した、と発表しました。

北極域は、すでに気温の低下が始まっており、再び氷が張り始めるのに伴い海水面積も増加へと転じていることから、9月16日の面積値がこのまま今年の最小値(観測史上最小記録)になるとみられます。

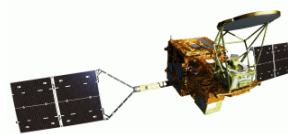
今年の北極海の海水面積は、観測史上初めて400万平方キロメートルを下回り、これまで最小だった2007年9月の425万平方キロメートルから日本列島2つ分も小さくなりました。

これは、1980年代の平均的な面積と比べると、半分以下の小ささにまで縮小したことを意味しています。

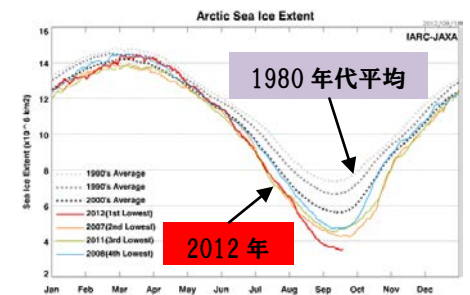
北極海の海水面積が縮小していること背景には、1980年代以降、北半球の気温が上昇する傾向にあり、海水の厚みが徐々に減り、気温や風、海水温の影響を受けやすい状態に海水そのものが変化してきていることがありとみられています。

特に今年は、春の段階で北極海のほぼ半分の海域が薄い一年氷(前年の夏以降に生成した氷)で広く覆われて海水が融けやすい状態にあり、さらに、夏には大型の低気圧が北極海上空に発生し海水域を襲っている様子が、衛星画像でも捉えられていて、海水が融け小さくなる傾向をより強める効果があったと考えられています。

【水循環変動観測衛星「しずく」】



「しずく」は、宇宙から水蒸気、海面水温、土壌の水分、雪や氷など地球全体の水循環を観測中。



北極海の海水面積を年代別に比較したグラフ
過去30年の間で半分以下の小ささに縮小

さらに詳しく知りたい方はコチラ

JAXA 宇宙利用ミッション本部(しずく)
http://www.satnavi.jaxa.jp/project/gcom_w1/
JAXA 地球観測研究センター(地球が見える)
http://www.eorc.jaxa.jp/imgdata/topics/2012/bn1207_09.html

【図書】「図解雑学 地球温暖化のしくみ」



監修：江守 正多
著者：寺門 和夫
発行：ナツメ社
定価：1,575円
ISBN：978-4-8163-4514-2

Space i 宇宙かわら版 2012年10月4日号

問い合わせ先：Space i事務局(財団法人日本宇宙フォーラム)
ホームページ：<http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ：https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/
※特に断りのない限り日付は日本時間です。

